

第3回府中市農業公園整備計画検討協議会 議事録

- ▽日 時 平成29年2月2日（木） 午後2時から午後4時30分
- ▽出席者 委員側 筒井会長 石阪副会長 高野委員 松本委員 谷中委員
木下委員 三上委員 千金楽委員
- 事務局側 石川経済観光課農政担当主幹 後藤公園緑地課長補佐、
加藤経済観光課農政係長 小林経済観光課農政係職員
- ▽欠席者 村野委員 齋藤委員(2名)
- ▽傍聴者 4名

■事務連絡(会議開催の追加の件)

事務局(加藤経済観光課農政係長)

各農業公園について、みなさまのご意見を反映させた基本方針事務局案をご提示させていただき、本日はこれをたたき台として議論を深め、その上で答申書となる農業公園の整備に関する計画案を調整していきたい。協議会委員委嘱の際に「会議は全3回を予定」とお伝えしており、本来ならば今回の協議会が最終回となるが、さらに1回の会議を追加で開催させていただきたい。時期は2月末から3月初旬の1か月程度先の日程で調整していきたい。

会長

皆さんいかがか。（委員：はい。）

了承をいただいたので、事務局で次回の会議日程の調整をお願いしたい。

■議題

(1)計画の基本理念について

事務局（加藤係長）より説明：資料7

会長

前回事務局から提示した基本理念の原案について、委員の皆さまから多数のご意見をいただき、今回このような修正案を示していただいた。前回の会議でいただいたご意見は概ね網羅されているので、この内容で了解ということでしょうか。（委員：はい。）
それでは、このように決定したい。

(2)農業公園毎の整備等の方向性について

(株)都市計画研究所より説明：資料8

① 西府4丁目

会長

前回に引き続き、農業公園の整備や開設後の運用などについて、皆さんからご意見を伺いたい。まず、西府町4丁目の農業公園について、ご意見やご質問をお願いしたい。

1つ質問で、高圧線を考慮する観点から、その下に建物を作るには難があるという話があったが、それ以外に考慮すべき点はあるのか。

㈱都市計画研究所

基本的には、高圧線の下に人が留まる場所である建物等を整備することは難しい。ただし、通路や畑である分には問題ない。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

今までも畑で人が行き来しているので問題ない。建物を建てるのが難しいとご理解いただきたい。

委員

資料がよくまとめられていて感心した。「農業者の協力を取り込んで」という話が各公園にある中で、農家が「お手伝いをしに行こう」と思うような動機づけをする必要があると思う。

若手農業者の中には、営農意欲はあるものの、補助事業の認定を受けたり農業試験場まで足を運ぶのは少し敷居が高いと感じている者が少なからず存在する。農業公園を、そんな彼らにとって、目新しい農業(甘いミニトマト栽培やイチゴの施設栽培等)に市民と一緒に実験的に取り組める場所にしてはどうか。

例えば、若手農業者や新規就農者からの需要があればの話にはなるが、ミニトマト栽培であれば市内農業者や農業試験場の職員に指導に来てもらい、2～3畝程度の広さで、植え方から生育の様子などを一般市民にも公開するようにしたら良いと思う。

機能配置においては、日当たりを最大限考慮すべきであると考えます。土壌は後からいくらでも入れ替えが可能だが、日当たりについては調整ができない。

機能配置図の『管理機能』の箇所については、その西側の実習機能の箇所(南部)と交換した方が良いでしょう。というのも、機能配置図の管理機能の場所は非常に日当たりが良い反面、その西側、実習機能の南部は冬季は住宅の日陰になり作物の生育に適さないからである。市民農園の中でも、北東部分は日当たりが悪く耕作を放棄される場所もあるので、そういった場所を管理機能とする方がよいのではないかと。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

今年度、農業後継者連絡協議会において、会員の一人を講師としてミニトマトの栽培講習を行った。全4回開催し、若手農業者が非常に興味を持って参加していた。

農業公園の中でそういった実習を行うのも大変面白いと思う。イチゴの栽培についても、若い農家の方に受講していただいて、市民へご指導いただくということがあれば広がっていくと思う。

会長

ミニトマトの農家の勉強会の場所はどこで行ったか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

講師が実際に使用しているビニールハウスで行った。

会長

日陰について重要なお指摘をいただいたが、日陰になる場所などを考慮して配置案を考えたのか。

株都市計画研究所

まだそこまでは、配慮にいたっていない。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

事務局としては、まず高圧線を避ける配置を行った。管理棟は道路に近い方がよいとも考えていたが、ご指摘いただいたように日陰の場所がよいと思う。

委員

施設栽培では、自然の雨風が畑に入り込むことがないため、連作障害が起きることが多い。農業公園に携わる農業者から意見を貰い、輪作をしていくことが必要だと考える。また、大勢の市民の目に触れることを考えると、化学農薬を大量使用するようなことも控えなくてはならない。

農業の原風景として、昔ながらの門や納屋を設置する話が出たが、その横に小さい水田を作ってはどうか。日本は瑞穂国(みずほのくに)であり、水田がある風景というのは、夏の稲の緑や秋の稲穂の実りなど、四季の移りかわりを感じることができる。武蔵野市の農業公園を視察したことがあるが、やはり水田があった。人間は水を見ると何かホッとすと思う。農業公園として 365 日、市民が飽きないようにするにあたっては重要な考えなのではないか。

会長

農業従事者の方も、もちろん市民に含まれるが、「農業従事者」という言葉で表現しているのは、農業従事者の方のバックアップがないと物事が動かないことから、敢えて尊重して使っている。市民と区分しているわけではないことをご理解いただきたい。

委員

農業公園内で井戸を掘る場合、その敷地内でどこを考えているのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

現段階ではまだ場所を決めていない。しかし将来的には、公園内の広場や、畑に水を与えやすい場所、災害時には炊き出し用のかまどとして使えるベンチなどの側に井戸を整備していきたい。

委員

府中市の雨水浸透柵をあえて作り、水の確保につなげてはどうか。浸透柵というのは、雨水を集めて、ろ過して、井戸の水が出やすくなる設備のことである。

事務局(後藤公園緑地課長補佐)

雨水を大地に返して地下水の保全を図ることは、防災的・環境的な観点もあり市として推奨している。市の公共施設では雨水浸透柵や、そこにつながる管についても穴を開けて地面に雨水を返している。建築でも、公共柵につながる最終柵については、水が大地にしみ込む形で、オーバーフローした水だけが公共柵に流れるようにしている。

委員

そういったものが目に見える形で農業公園があれば、子ども達に環境について学ぶ機会を提供できるとともに、自分たちが普段口にしている農産物はそういう自然環境の中で作られているという事が分かると思う。

委員

農地自体が、そもそも浸透柵の機能を有している。例えば、公園の一部で人工の浸透柵を展示して、「これと同じ機能を持つ農地が、今どんどんなくなってきています」というように関連づければ、都市農地の多面的機能や現状を市民にアピールすることができると思う。

副会長

近年、急速に栽培技術が進歩し、若手農業者でも新しいものを求めている人がたくさ

んいる。そこで、我々がこの農業公園を通じ情報提供していくことも必要だと思う。

また、消費者からの関心の高い無農薬野菜の事や、外国産農産物と国産農産物の違いなども、この施設で情報発信できればよいと思う。

私は農業高校の職場体験を受け入れており、将来農業関係の仕事に就きたいという子どもを大切にしていきたいと考えている。農業の魅力を積極的に発信して、今まで農業に興味関心のなかった人でも農業に関わりたいと思えるような施設にしたい。

会長

「参画してくれる人をいかに多く集めるか」が最大のテーマだと思う。ここは面積も広いし基幹となる公園なので、多くの人が参画できるような構想で組み立てていただければと思う。

委員

東京都の「都市農地保全支援プロジェクト」という事業を活用してこの農業公園の整備を進めるということだが、これは平成26年度から始まった事業であり、平成29年度の都の予算要望にあたって事業内容を拡充して、農業公園、福祉農園、市民農園などを含めて事業ができるようになった。ハード事業の中身も出てきているが、例えば農業公園ではトイレや農機具の格納庫、灌水施設、通路など、まさしくこの事業で可能ということで今度の議会で決まり、予算取りができる。

計画の中で通路等があるが、障がい者や高齢者、車いすの方で農業に触れ合いたい方がいらっしやると思うが、バリアフリーには考慮しているのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

今のところは細かくは考えていないが、ご意見をいただきながら必要なものをそろえていく。車いすの方にも農業公園を解放したいので、当然それに対応したトイレ等も必要になる。そういった面でも補助の対象となるとありがたい。

会長

障がいがある方も参画するというのは当然の前提として考えていかなければならない。

委員

通路がバリアフリーであれば、障がいのある方だけでなく、小さな子どもを連れた保護者も使いやすい。トイレにはオムツ替えスペースがあれば、保護者に「自分たちも使える施設」と思ってもらえる。バリアフリーというのは、障がいのある方に対してだけでなく、小さな子ども連れの保護者にも必要だと思う。

会長

ごもっともな意見で、小さいころから農業にふれることは非常に大事だと思う。

委員

日陰の所に管理棟を持ってきてはどうかというお話しがあったが、ビニールやガラス製のハウスを建てた場合に、反射を利用して太陽光を取り込んでどうか。管理棟を建てて、その横にそういった施設を建てることは可能なのか。

委員

私が先ほど申し上げた日陰の場所は図の南西の部分で、ここは駐輪場や資材置き場などにすれば良いと思う。管理棟はご提案いただいた北西でもよいのでは。場所によってはおもしろいアイデアだと思うが、可動式にしなければならないなど考慮すべき事項が多く、今回そこまでの予算措置は取れないのではないかな。

通路の付け替えは良いアイデアだと思う。真ん中のピンク色の矢印で示された通路は、車いすで通れるようにすると良いと思う。その通路の周囲は、土ではなくグラスウールなどを使って地面から高さを出して、車いすでイチゴやトマトを摘める様にする等の配慮をすれば良いのではないかな。また、私の所有する農地(資料の図の南東部分)に面する道路沿いに、保育園の子ども達がアスファルトにしゃがみながらトマトやキュウリが採れる場所を毎年作っている。そのように、人に応じて高さを工夫するとよい。

広場機能については、先ほど意見があったように、ただ畑があればよいというのではなく、昔ながらの水田や門などがあると良いと思うが、今考えているデザインのイメージ等はあるのか。

(株)都市計画研究所

私も武蔵野の市民農園を見てきたが、移築した長屋門があり、水田と小広場があった。府中市においても、芝生広場に小さい水田が隣接したようなものをイメージしている。

② 南町6丁目

委員

小規模な駐車場を整備するという話があるが、協力する農業者も苗や資材を運んで来るのに駐車場が必要になるが、どれくらいの規模を予定しているのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

駐車場に面積を割くよりも、可能な限り農業関係のスペースにしたいと考えている。管理用に1台分の駐車スペースがあれば良いかと思っていたが、ご指摘のように、協力

していただく農業者のための駐車スペースも考慮する必要がある。台数については、追って協議していく事になると思う。

会長

周囲に公園やビオトープがあり、どう使っていくか、いろいろなご意見あるかと思うが、いかがか。

委員

南町農業公園の活用について、郷土の森と一体化して、市民だけでなく市外からの観光客等、広く多くの方が親しめるようにするというのは新しい考えだと思う。農業公園内にイベントスペースを確保し、郷土の森とコラボレーションして、郷土の森でプラネタリウムを見た後に、いも掘りをする、その後に分倍河原まで歩いて帰るツアーの提案などの活用の仕方がある。

水路については、今使っていない、水量がほどほどにあるということであれば、土日にポンプアップして、農業公園内に簡易な疑似小川を作り、用水路で捕まえてきたザリガニをその疑似小川に放流しイベントにしてもおもしろいのではないか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

郷土の森のプラネタリウム、農業公園のお芋堀りの後に水路沿いで分倍河原まで帰るというのは大変よい案で、市の中でも部署同士の連携をとって進めていかなければならない事業になると思う。

委員

テーマ(仮)として、「水と緑に囲まれた自然豊かな体験農園」とあるが、夏場に行くと緑があると思うが、私が冬に訪れた時はあまり緑はなく、見上げると空と工場、あるいは小学校の屋根が見える状態だったので、その辺り、景観が寂しくなってしまう点をどのようにカバーしていくのか、何か考えはあるのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

テーマに「緑」と掲げているのは、この南町周辺地域が、府中市内で指折りの広さの農地が残る地域だからである。南町周辺には工場等があるが、これだけ広い面積の畑もある地域というのは府中市内ではそう多くない。

この南町では、地域の皆様が広い農地にヒマワリやポピーを植えていて、ちょっとしたカメラマンの撮影スポットになっているほどである。

委員

水辺、生き物、親水。どんな農作物を作るかにとっても興味がある。隣の矢崎小学校の生徒もすぐに寄ることができる環境でもあるので、小学校の学習に役立つと思う。小学生は将来の農業の担い手という面から、子どもが興味を持って足を運べるようなものがあればよいと思う。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

矢崎小学校の5年生は、近所の農業者の協力を得て大根を作っている。市の農業まつりで販売するので、子ども達にとっては大変作りがいがあるものとなっている。

また、サントリービール工場の下部分は、通学路になっている。ここでも地域住民の皆様が花を植え、花の中を歩いて学校に通えるような環境を作ってくださっていて、既に農業公園の景観機能を有していると言える。周囲に工場があるが、「Team 雑田堀」の一員には周辺の工場の方も皆さんも参画いただいて、皆で一体となってこの辺りの景観を大事にしているところである。

また、矢崎小学校は水を引き入れてビオトープを作っている。小学校では、近隣の在り方に見合った教育の進め方をされていると感じている。そこで農業公園をどのようにするのが、おっしゃるようが一番肝心なところで、子どもたちが素直に使えるような、両親を引きこんでこられるような農業公園を作っていければと考えている。

委員

私の子どもは第二小学校に通っているが、社会科で農家の方の話を聞く授業がある。学校とリンクして農業公園が充実したものになるとよいと思う。

委員

地域づくりは、個々ではなく地域全員で取り組むものであり、個人や工場などの分け隔てなく活動を行うことがこれからの地域づくりにおいて大切だと考えている。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

学校との関わりのご意見について、農政で関わりを持つ小学校は22校中15校で、他の学校も独自に取り組んでいる。PTAの会長を引き受けてくださるのは農業者が多く、学校から頼まれて農業の授業をしてくださっている場合もあり、農業を組み込んだ授業を行っている。農業公園が完成すれば、遠足で郷土の森に来た際に農業公園まで来て用水路沿いに歩いたりすることが可能になる。そうすれば、より一層市民の皆さんに、都市農業についてもっとご理解いただけると考えている。

委員

おっしゃるように、住宅に囲まれ工場もありながら維持している、この状況がまさしく東京の農業、都市農業だと思う。逆にそれをPRすることが大事だし、食べ物を作ることが都市農地で行われていることの重要性、生産緑地とは何か、都市化の進む地域の中で農地を維持していくのは大変だということを、子どもたちにも教えていければ、都市農業の大切さについて勉強できると思う。

委員

「都市農業を考える農業公園」などにテーマを変えてはどうか。

委員

「緑」と「水」が入ると人間はわくわくする。「何もないですよ、冬に行くと枯れ野原ですよ」では人は来ない。「緑」はなるべく取らないでほしい。

委員

現況は市民農園となっていて、畝の方向などを無視し好き勝手に作付されていて見た目が良くない状態である。これを、農業者の畑の様に計画的に作付けをして、入っても怒られないようにしたものが農業公園なのだと認識している。冬に土が見えていても、それも農業の風景の一部だし、常緑の木を植えなければいけないということもないと思う。あまり細かく区切らないで、ある程度の広さで区画を計画してみてもどうか。農業者も、それぞれに得意分野があるが、小松菜が得意だから小松菜ばかりというのではなく、「自分ならこうする」という思いを調整して、畑らしい、畑の景観になるような運用をすることが重要だと思う。

③ 小柳町6丁目

会長

ここは非常に小さく、宅地が接近しているが、幸いにも小柳公園が隣接しているので、そことの一体化を図るということで前回ご意見をいただいていた。

委員

前回の協議会で「小柳公園の設備をもう少し整えた方がよいのではないか」というお話があった。食育で農作物の加工となると加工の場が必要であり、その施設をこの小さな場所に作ることは無理があると思うので、小柳公園の管理棟の一角に、そういった施設や設備を設けることは可能なのか。

会長

トイレも含めていかがか。

事務局(後藤公園緑地課長補佐)

小柳公園は広域的な公園で、南側にテニスコートがあり、東側には北多摩一号水再生センターがある。ここの屋上は草が植えられ、普段はサッカーやグラウンドゴルフなど、市内外から広く利用されている。駐車場も備えている。テニスコート近くには公衆トイレもある。農業公園からはプールをはさんで少し歩くようになるが、もちろんご利用いただける。しかしプールは夏季7、8月のみの営業であるし、プールと農業公園の中間的な場所に水飲みやトイレがあれば、双方の公園がより便利なものになると考えている。現在のトイレはテニスコート利用者も使うためその中心にあるが、老朽化しており、施設改修の機会をとらえて、農業公園が開設された際には相互利用できるような形での位置、構造等、そしてバリアフリーも考えていきたい。

会長

前回、小柳公園は暗い、人も少ないという話もあった。公園という状況を活かして農業公園と一体となって動けばありがたい。

④ 小柳町2丁目

会長

他とは違う形で使われている場所。ここについてのご意見いかがか。

委員

水田なので稲作をベースに考えていると思う。黒米や赤米、これらで絵を描く田んぼアートなど、収穫メインだけでなく、観光面での活用もあってよいと思う。ボランティアで稲の植えつけをしたりデザインを考えたり、市長の顔を描くとか、田んぼらしい、田んぼしかできない活用もできると良いと思う。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

東側に通る西武線の電車からも見えるところに位置しているので、乗客に対し宣伝ができる。また、可能かどうかは別として、ここで市民の皆様が米を作り、それを学校給食に使うということも考えられる。

しかし、ここはトイレもなく、現状は田んぼそのものだが、近隣の子ども達は、稲刈りの後ここで遊べる。私たちが子どもの頃遊んだような所になっている。

農業公園としては、水田用の水は流れているが、手を洗う上水、トイレ程度は最低限

必要だと考えている。

委員

普段行かない場所なのでよく分からないが、緑肥となるレンゲの栽培などは行っているのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

ここは、ただ単純に水田だけで、レンゲの栽培は行っていない。

委員

家の近くでレンゲを育ててすき込む、までの一連の流れをイベントにしている所がある。自分たちが小さい頃によくあったような、レンゲ畑のイメージが鮮明に残っている。花もきれいだし、景観面を考えても、この公園に取り入れてよいかと思う。

会長

稲を作った前後をうまく有効利用できないかなと思う。私も小さい頃のレンゲ畑の記憶がよく残っているが、最近は見ることあまりない。お米だけでなく稲を刈った後の田んぼの利用法もあるとより楽しいと思う。

委員

レンゲ畑は緑肥になる、うちの周りでもやっていた。きれいだが、人が入ることで、ゴミを捨てられる可能性がある。田んぼは裸足が基本なので、ガラスの破片などが田んぼにあると危険で水田に入れなくなる。こういった都市の住宅密集地だとゴミを捨てられる可能性はかなり高く、そのためレンゲの栽培をやめてしまった経緯がある。

私はレンゲに替わるポピーを作っている。3月に定植すると5月に満開になる。ポピーはレンゲと違い生い茂ることが無いので、投げ捨てられた空きビン等も目視でき、裸足で踏んでしまう危険も少ない。

委員

私の所属団体で、親子企画で田んぼの生き物調査をやっている。これが好評で、親の方が夢中になって楽しんでいる。水田はお米を作るための場所ではあるが、環境教育や他の楽しみがあるとよい。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

ここでは市民農業大学稲作コースという市民を対象とした農業体験講座を実施している。毎年親子が大勢参加していて、子どもは生き物を探して、全身泥まみれになって楽

しんでいる。また、レンゲについては、ビンを捨てられるという話もあったが、農業公園としてはあってもよいかと思う。というのは、田畑を大事にするという教育もあってしかるべきなので、危険はあってもあえてレンゲを植え、翌年はポピーを植えてみる等、色々試行錯誤していけばいいと思う。

会長

畑の後、レンゲが咲き、それをすき込んでいるが、翌年種を撒いていないのに また芽が出るということはあるのか。

委員

昔は田植えの時期が遅かったので、レンゲの種が落ちるまで植わっていて、それが翌年発芽した。今は農家の都合で、トラクターを入れないとトマトを植えられない等の事情がある。農家が非効率だから、という理由で現在やらなくなったことを、あえてやるというのも農業公園のポイントだと思う。当然ながら、「入ってもよいがゴミは持ち帰ってください」とか、「ここは裸足で入る場所です」等、農業公園ではそのようにして啓発をすることはできると思う。昔あったものがなぜなくなったかを、分かってもらってもよいと思う。

副会長

収穫したお米以外の、藁の利用というのもあるとよいのではないか。

委員

田んぼを起す時期に、昔、神社の下の田んぼで子どもが相撲を取ることで、田んぼの土壌に酸素を入れていたという話を聞いたことがある。米づくり＝文化、昔の暮らしを知るということになる。農家ではできない、お金にならないことでも、子どもは楽しいと思うので、田を起す事も参加できるようにしたい。あと、「どんど焼き」や、もち米も作り、餅つきイベントをするなど広げていけるとよい。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

「どんど焼き」は近隣住民からの苦情が多い。押立町、四谷の2か所で実施しているが、押立町は多摩川の河原へ開催場所を移行せざるを得なくなってしまった。たき火はダメで「どんど焼き」はよいのかと消防署に通報が入った経緯もあるため、新たに「どんど焼き」をすることは残念ながら難しい。相撲などは面白いと思う。経済観光課と公園緑地課だけの話だけでなく、市全体に広がっていく話だと思う。

会長

候補地を順番に議論したが、言い忘れたことなどあればお願いしたい。植える農産物について、府中市に伝わる伝統の農産物のようなものはあるのか。農業者の皆様いかがか。

委員

私の父親の時代は、府中は枝豆やスイカの栽培が盛んだった。時代の流れによって農業者が皆同じ作物を植えていた。『これが府中の伝統野菜だ』とはっきり言うのは難しいと思う。

委員

戦国時代以降、岐阜の真桑村で作られていたウリを近江の商人が持ってきて、将軍への献上品として府中で作っていた。マクワウリは韓国などでも食べられていて、今でも西府町で作っている農業者がいると聞く。

委員

府中市は、マクワウリの苗はまだ配っているのか。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

西府町の農業者の一人が真桑村のマクワウリを作っている。孫芽でないと実が付かないなど、栽培が大変難しいらしい。甘味はあまりないが、生ハムを巻いて食べると大変美味しい。府中市内で作られている江戸東京野菜はマクワウリ（御前裁瓜）と言われている。本町の横に徳川家康の御殿跡があるが、徳川家康に献上された歴史を持つ農産物である。

委員

資料No.3-1で、テーマに、「食育、農作物の加工、御前裁瓜」と書いてある。

副会長

マクワウリはうどんこ病になりやすく、非常に栽培が難しい。

委員

作ってみませんかと言われたこともあるが、子ども達には自分が美味しく食べられるものを植えてあげたいという私の考えで断ったこともある。区画を区切って、農家も学校も作らない御前裁瓜などを、敢えて作ってみるのもよい。江戸東京野菜にこだわらなくても京野菜など、昔の野菜の形や色を知るだけでもおもしろい。

会長

多くの意見が出た。他にいかがか。

委員

まだ案だと思うので、たくさん出た中で実現できるものは設計の中で、区画や種類など計画されていくと思う。あくまでこれらは、今ある意見なのかと思う。次の具体的なステップがあるのか。

会長

ワークショップがある。そういう面ではいろいろな意見があってよいと思う。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

この協議会は、今後実施予定のワークショップでの論点になる基本的な事項を決める場所だと認識している。ワークショップは、ある程度論点の方向性が定まっているなかで話し合っていきたい。多くのご意見が出るのは、うれしい限りで、この中からテーマを決めて、設計に反映できればと思う。

今日までのご意見をもって、次回、「答申の内容はこのようになります」という投げかけをさせていただきたい。

委員

No.1の西府公園について、先ほど「新しい」という言葉が出たが、府中の農業の10年計画にも入っている言葉なので、「新しい農業」とは何かについて、よく考えていく必要があると思う。

なぜ畑が大事なのかという話や、畑は自然の雨水浸透柵だという話は、説明されればこそ理解はできるが、なかなかそういう機会がないのが現状。農業公園に行けば、すぐに視覚的にそういうことが理解できるような仕組みづくりが大事だと思う。ソーラーで照明など、アイキャッチとなるような施設も取り入れてもよいと思う。

会長

非常に大切なご意見だと思う。

委員

農業公園の整備については、参加する市民や農業者の意見を聞きながら進めるものだと思う。作物も栽培したいものが様々出てくるだろうし、運営の中で皆さんと決めることがベストだと思う。農業公園を整備するということであれば、我々協議会のメンバーはハードの部分がどのように作られるのかが、一番興味があるところだと思う。次回は

ぜひ、理想でも結構なので、ハードの部分をしっかり提示してほしい。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

良いご意見だと思う。時間が許すなら、ハードに付随するいろいろなご意見も伺いたい。事務局だけではこのようなアイデアは出ないし、ご意見をうかがってどんどん話が良い方向に広がったと思う。

委員

資料左下のスケジュールで、H29基本設計、H30実施設計、H31整備、H32開設とあるが、31年度に4か所すべて整備するという考えなのか確認したい。

事務局(石川経済観光課農政担当主幹)

No.1の西府町のみとなる。開設した後に、良い面、悪い面も出てくると予想できるので、敢えて整備時期をずらしている。予算の関係もある。

会長

委員の方たちが、農地が市民にとってどれ程大切かということは、既によくご存じだと思うが、「どんど焼き」だけでなく農業を営む中で発生してしまうの音などで苦情を出すような方たちにも理解してもらえるように、農業公園を運営していかななくてはならないと思う。

副会長

西府町について、資料の「導入機能④管理その他」で垣根とあるが、昨年行った武蔵野の農業公園では、普通垣根は生垣などを作るところにジャガイモ等を植えていた。そういう方法もよいと思う。フェンスをするのであれば、この場は野菜にちょうどよい場所なので、季節に応じた野菜を生け垣として植えるのもよいと思う。

委員

「新しいもの」という話では、先日テレビで、全て機械で温度管理するイチゴ栽培が紹介されていた。ハウスも開けたり閉めたり、来た方が仕組みが分かるようにするとよい。

小さな農園でも野菜が盗まれることもあるので、全体が見渡せるような場にしたり、八ヶ岳の事例のように全体をネットカメラで映して、野菜の成長や雑草の様子が分かるとか、夜の不審者を抑止するなど、ほどほどの値段で先進的なものを、門などの古いものと共存させるというのもおもしろいと思う。

会長

本日は農業公園の整備に関して、ご意見をくださりありがとうございました。

11月22日の第1回協議会で、農業公園の整備に関する計画の作成について諮問を受けているので、協議会としても計画案を作成しなければならない。事務局は前回と今回で皆さまからいただいたご意見を反映させた形で計画案を作成し、追加開催の次回に最終確認をして確定することにした。

以上